

ミャンマー少数民族地域の児童支援について  
ご支援のお願い

# ミャンマー少数民族地域の児童支援について

## 【ご協力のお願い】

2021年2月に突如、ミャンマー国軍がクーデターを起こして以降、コロナ感染の影響もあり、ミャンマーの少数民族地域に住む児童への教育支援は完全に途絶えてしまいました。

それでも、子どもたちは国軍からの攻撃にも耐えながら、森の中で学習を続けていました。

しかしながら、政府軍による爆撃も続き、生活環境が劣悪なため、学習にも支障を来し、さらに子どもたちが栄養失調になることが懸念されていました。

そこで、当団では、戦闘が続いている中ですが、2022年10月より、児童への栄養補給食品を送ることを始めました。それ以降、徐々にですが、支援を拡大しつつあります。

今後は、当地域に住む3000人あまりの児童の教育・保健衛生環境の整備のための支援を続けていく必要があります。

ミャンマーの少数民族の児童の自立を促進し、彼ら自身でミャンマーの平和と安定を築いていくためにも、私たちの支援が必要です。

貴労組の皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

NPO法人アジア児童福祉会  
理事長 松本久仁子

# ミャンマー少数民族支配地域の児童の状況

- ▶ クーデター以降、依然としてミャンマーの政府と少数民族の戦闘が続いている。
- ▶ 少数民族が避難した地域は山間部であり、児童の教育・衛生環境は劣悪なままに置かれている(電気・水道・ガス等のインフラはない)。
- ▶ 現地の小学校では教育機材・教育施設(校舎・文房具・教材・トイレ・電気・医務室など)がまったく整備されていない。
- ▶ 政府軍の空爆のため、森の中で授業が行われている。
- ▶ 支援対象地域にはCommunity School Programという現地のNGOが支援をしているが、不十分なままである。
- ▶ ミャンマー少数民族地域は多産社会であり、児童数は増加している。

政府軍の爆撃を避けて、森の中で学習する児童たち。



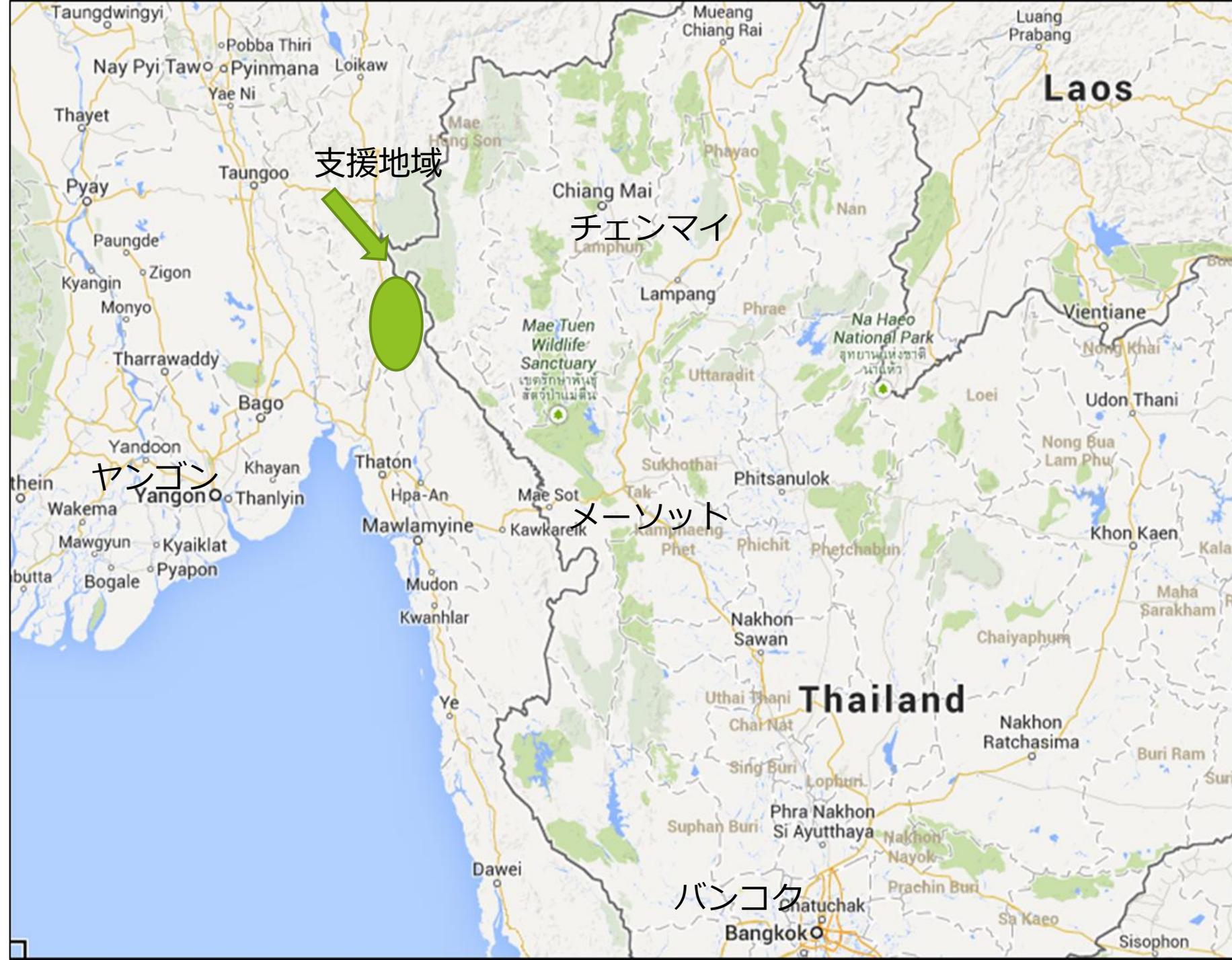
# お願いしたいミャンマー少数民族児童支援事業について

- ▶ 事業内容・・・小学校の施設・教材などの提供
  - 教室の改築、文房具、ソーラーパネル設置等
  - 児童への栄養補給食糧の提供
  - Yellow Beans、干し魚の提供
  - 児童の緊急時での医薬品確保
  - First Aid Kitの提供
- ▶ 事業規模・・・300万円(年)程度
- ▶ 展開方法・・・現地のNGOの協力のもとに、現物支給で進めていく
- ▶ 展開場所・・・ミャンマー少数民族支配地域（カレン州北東部）
- ▶ 支援対象者・・・同地域に住む3000人の児童、10か所程度の小学校

# 予算概算(年間)

1.	小学校の施設・教材などの提供	100万円		
	学校整備			
	かやぶき屋根をトタン屋根に改修	@5万円 x 2		10万円
	床の舗装	@5万円 x 2		10万円
	ソーラーパネルの設置	@5000円 x 40		20万円
	教材の提供 (テキスト、文房具など)	@200円 x 3000人		60万円
2.	児童への栄養補給食糧の提供	150万円		
	栄養補給食品の提供	@500円 x 3000人		150万円
	Yellow BeansとCooking Oil			
3.	児童の緊急時での医薬品確保	50万円		
	First Aid Kitを学校に整備	@1万円 x 20		20万円
	村の診療所への医薬品の整備	@3万円 x 10		30万円

支援事業の地域:  
ミャンマーとタイとの  
国境山岳地帯。  
タイのメーソットを支援  
の拠点として展開。



# NPO法人アジア児童福祉会について

## ▶ 目的

アジア諸国の孤児や生活困窮児童たちに対し安定的な支援を行うと共に、児童の健全な育成を図ることを目的としている。

## ▶ 活動

(1) 子どもの健全育成を図る活動

(2) 国際協力の活動

## ▶ 役員

理事長 松本久仁子

副理事長 梅村真行 上西ドゥリアン 眞鍋貞樹

理事 金明美

事務局長 田村香純

監事 加藤博

# 当団体の主な活動の歩み

- ▶ 2017年6月16日 NPOアジア児童福祉会を設立（旧団体を引き継いで設立）
- ▶ 2017年7月 豆満江福祉院及び教会で暮らす子供達24人に文具及び食料を支援
- ▶ 2017年4月 在日ミャンマーの子供支援として、RCCJ教育支援を開始。 **画像1**  
2020年～コロナで中断。
- ▶ 2019年3月 中国東北部孤児院の子供達28人へ、シリコン湯たんぽを寄贈 **画像2**
- ▶ 2019年6月 ミャンマー・カチン州の子供達へ、通学BAG類を寄贈(3回にかけて5000個)  
**画像3**
- ▶ 2019年8月 孤児院出身の学生を日本に招待し、早稲田大学生及び当会メンバーと交流  
**画像4**
- ▶ 2020年2月 ミャンマー少数民族児童にランチバッグ(保冷)を2000枚寄贈 **画像5**
- ▶ 2022年5月～6月 ウクライナ子供達への支援として3団体へ、各10万円ずつの寄付
- ▶ 2022年10月 ミャンマー少数民族地域に栄養補給食品を贈呈 **画像6**
- ▶ 2023年3月 ミャンマー少数民族地域にソーラーパネルとFirst Aid Kit を贈呈 **画像7**

## 難民連携委員会（RCCJ）2019 年度上半期レポート

難民連携委員会は、①難民が相互に助け合うこと、②難民に対して、日本社会がより寛容な社会になるよう政府や地方自治体、地域社会に働きかけること、③難民自身が、日本社会に貢献できるようにすること一を目的として活動しています。2019 年上半期は、主に以下の取り組みを進めました。難民をめぐる政策に難民の声が反映されることを心より願い、ご報告いたします。

### 1. 難民の子どもへの学習支援教室

2013 年より継続して、日本に暮らす難民の子どもに対する教育活動を J-FUN ユース、UNHCR Japan、RIJ と実施しています。内容は、毎週土曜の 16:00-18:00（もしくは 16:30-18:30）に早稲田奉仕園で、難民問題に取り組む学生団体 J-FUN ユースの大学生を先生として、子どもたちの宿題やテスト勉強、受験勉強などを行っている定期的に通う子どもの数は、小学校低学年から高校生に渡る 15 名、先生は 5 名です。



写真：学習支援教室の様子

家庭内で、学校の勉強が日本語のために両親や家族に聞くことができない環境の子どもだけでなく、高校受験のサポートなど、子どもたち一人ひとりにあわせて活動を実施しています。

本活動は、2013 年から 2017 年の間、鶴見大学の永坂哲先生による教室利用料金をご支援いただいたことで活動を続けてくることができました。2017 年からは、株式会社ゴールデンバーグ様からのご支援によって、この学習支援教室を現在まで継続することができています。継続によって、子どもたちの学習意欲と成果は伸び続けており、活動開始当初は中学生だった生徒たちの中で、何名かの生徒は現在大学へ進学しています。

株式会社ゴールデンバーグ様からの温かいご支援に厚く御礼を申し上げます。



## 画像1 難民の児童たちに、 難民連携委員会と共同で、 日本語教育





画像2 豆満江福祉院にて

湯たんぽを受け取る子供達の写真



### 画像3

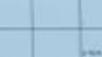
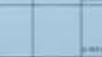
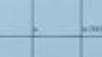
株式会社ゴールデンバーグより寄付された物資のうち半分を、カチン州Nawng Ing地域にある国内避難民（IDP）キャンプにいる子どもたちに提供。

半分をKachin Education Foundation（KEF）宛てに提供。

2019年6月12日



Japan Nawa Yu Hkayga Bur Ai Arang Arak Arhyan					
No.	Name	Gender	Age	Photo	Remarks
1	...	...	...		
2	...	...	...		
3	...	...	...		
4	...	...	...		

1	...	...	...		
2	...	...	...		
3	...	...	...		
4	...	...	...		

## 画像4 孤児院出身の学生を日本に招待

子供たち招請スケジュール			
日付	曜日		
1/28/2018	日	KEB26	延吉→仁川 (11:45→15:20)
		KEE01	仁川→成田 (17:20→19:40)
1/29	月	AM	10:00～上野国立科学博物館
		PM	東京スカイツリー (夕食時)全員集合
1/30	火	AM	大学見学
		PM	渋谷栄一記念館
1/31	水	AM	東京→広島へ移動
		PM	
2/1	木	AM	
		PM	
2/2	金	AM	
		PM	
2/2/2018	金	KE720	羽田→仁川 (深夜2:00→4:45)
2/3/2018	土	KEB25	仁川→延吉 (9:15→10:45)



日本の大学生との交流2018年

\* プライバシー保護の為、一部画像を不鮮明にしています



画像5 ミャンマー カチン州の児童にバッグを贈呈





画像5 ミャンマー カレン州の児童にバッグを贈呈

画像5 ミャンマー カレン州の児童にバッグを贈呈



## 画像6 カレン州の児童に食糧支援



2022年10月に実施した食糧支援の様様。  
左上は、タイとミャンマーとの国境の川。  
左下は、小学校への支援の様様。  
右上は、遠方から支援物資を取りに来た小学校の教師。  
黄色い袋に、Yellow Beansが入っている。

画像7 カレン州の小学校にソーラーパネルとFirst Aid Kit を贈呈



各村から学校の教師などが集まって、支援物資を受け取った。  
右側の赤い帽子を被った人物が、CSPのスタッフ。  
青い看板は、村にある診療所。

# 現地のパートナーNGO Community School Program



右端の女性が、Community School Programの設立者の  
Ms. Eh Thwa.

タイ・メーソットにあるミャンマー  
難民向け病院(メータオ・クリニック)でのボランティア活動から、現  
在はミャンマー国内の児童の支援活  
動を展開している。